

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	第3回益田市部活動地域移行推進協議会
開催日時	令和7年3月18日（火）10時00分～12時00分
開催場所	益田市市民学習センター 203 研修室
出席者	[協議会委員] 大賀肇委員、大達隆人委員、陶山勝委員、羽柴貴宏委員、豊田邦昭委員、日高慶三委員 [事業担当課] 学校教育課 田原課長、房野参事、 寺戸部活動地域移行コーディネーター 協働のひとづくり推進課 中島課長補佐、石川主任 文化振興課 田原課長補佐
議題	（1）部活動の地域移行に関する取組の進捗状況 （2）児童生徒、保護者、教職員へのアンケート調査の結果について （3）今後の取組について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
審議経過	1. 開 会 2. 協 議 (1) 部活動の地域移行に関する取組の進捗状況 ○中学校の取組 ・2月の校長会で、今年度の地域移行に向けての取組で新たに取り組んだことについて聞き取りを行ったところ、部活動の活動方針を見直した中学校が5校、他校との合同部活動を実施した中学校が4校、平日の活動日数や活動時間を縮減した中学校が4校、習い事や地域の活動を優先・推奨した学校が4校、任意入部制を導入した中学校が2校、地域との連携を図った中学校が2校であった。 ・市内の中学校は全て任意入部制となった。地域クラブや習い事に参加しやすい環境づくりに各中学校は取り組んでいる。 ・地域移行に関する内容で職員の間で会議をした中学校は8校で、そのうち今年度は会議の回数が増加した学校が2校であった。保護者との会議では3校が実施し、今年度は回数も増加した。 ○各協会・連盟との協議 ・11月以降に各協会・連盟と地域移行について協議を行った。私の方から部活動の現状と課題、益田市の地域移行の基本方針やこれまでの取組について説明し、その後各協会・連盟の方から地域クラブの情報や、地域移行に関する意見を伺った。意見は個人の感想や考えであり、協会・連盟の決定事項ではない。協議内容の主なものは次の通りであった。

- ・野球連盟の方との協議では、中学校の野球部顧問で立ち上げた益田鹿足クラブは今年度から野球部員以外も入会できるようになり、中体連主催大会以外の大会への参加もしていることや、平日の地域移行はナイター照明がないと難しいとの話があった。
- ・バスケットボール協会の方との協議では、勤務時間までは部活動を続けたい学校があれば、地域移行を進めていく中で部活動も続けていくといった形をとる方法もよいのではないかということや、地域移行に関して分かりやすい内容で広く周知した方がよいという話があった。
- ・サッカー協会の方との協議では、各地域でスポ少のクラブチームがあるので、そこに中学生のカテゴリーが作られるのが効率的であるということや、スポ少のクラブチームも会員不足や指導者不足で存続が難しくなったクラブチームも出ていること、平日の地域移行はナイター照明がないと難しいという話があった。
- ・吹奏楽連盟の方との協議では、令和7・8年度の平日の部活動は各学校で活動し、休日はコンクールまでは各学校で活動し、それ以降は合同部活動を定期的実施するのがよいとの話があった。今後、部活動顧問、行政担当者、吹奏楽関係者、グラントワ職員で協議する予定である。
- ・陸上競技協会の方との協議では、陸上教室のスタッフを増員すれば地域移行は可能であることや、現在、益田陸協は浜田陸協との合同練習を12月～3月の休日に月1回実施しており、益田市は部活動での参加や個人の自由参加であるが、浜田市のように輸送等、市のバックアップがあると助かるということ、平日はナイター設備が必要になってくるとの話があった。
- ・卓球協会の方との協議では、指導者の高齢化による不足が課題であることや、休日は現存の地域クラブで実施するのが現実的であること、競技志向でなく楽しむといった緩やかな活動であれば、大人が公民館等での卓球をしているところもあるので、そういった活動の場が利用できるのではないかという話が合った。
- ・ソフトテニス連盟の方との協議では、行政側の具体的な支援策が決まってからクラブ設立に向けて検討を始めることや、資格を取る予定の人はいるが経費や時間等の課題もあるとの話があった。
- ・柔道連盟の方との協議では、益田柔道教室は柔道部の休日の地域移行の受皿となることや、柔道教室と部活動の両方の指導者でもある教員が転任した場合は、勤務終了後に柔道教室の指導に当たるので、部活動と柔道教室の連携を図っていきたいとの話があった。
- ・バレーボール協会の方との協議では、現在、中学生対象の地域クラブは無く、クラブを設立すると部活動の人数が少なくなり、運営が難しくなるとの声が昔あったことや、国スポの関連でバレーボール教室が開催されていることと、私立高校でもバレーボール教室が開催されているとの話があった。

○協議

(委員)	・地域移行に関する保護者との会議の内容は、自校では市の地域移行の方針や部活動の現状などについて説明を行った。
(委員)	・益田陸上教室は指導者が少ないから現在新規募集を停止しているが、指導者が増えれば募集を再開すると思われる。
(地域移行CN)	・益田陸上教室に入っていなくても、浜田陸協との合同練習では陸上部であれば自由に参加できると聞いている。
(事務局)	・陸上部がない学校で陸上をしたい生徒は、益田陸上教室のような受け皿があると中学校としてはありがたい。
(委員)	・中学校は全て任意入部制になったということであったが、全員入部制の学校があるとの認識は自分にはなかった。
(委員)	・吹奏楽は楽器の確保と練習会場である学校の鍵をどうするのが課題である。各校にある楽器の貸し出しができるようになるとうい。個人購入は経費がかかるので、教育委員会が学校で使われなくなって眠っている楽器を把握して必要に応じて貸し出しをするようなシステムを作っていくとういのではないか。その場合の修理費は借りたところが負担するしかないであろう。小規模校は何校が集まって定期的に合同練習が実施できるとよい。吹奏楽部がない学校で吹奏楽をやりたい生徒は、100 人の吹奏楽の練習に参加すればできる。合唱はグラントワ合唱団でできる。益田出身の音楽教員が少なく、何年かすると東部に帰るので市内の全顧問をまとめていくことが難しい状況である。
(委員)	・先日のグラントワでのスプリングコンサートで市内の吹奏楽部員たちによる演奏はとてもよかった。普段の練習は少ない人数で寂しい感じがしていたが、いい刺激を受けたように思うので、良い形だと感じた。
(委員)	・吹奏楽の中学生の地域クラブは難しいが、定期的に集まって楽器を貸し出ししていくやり方であれば受け皿として何とかできるように思う。
(房野参事)	・吹奏楽コンクールの規定では、小学生も継続的に練習に参加していれば中学生と合同で出場できるので、そのことを小学校にも周知するとよい。
(地域移行CN)	(2) 児童生徒、保護者、教職員へのアンケート調査の結果について ○アンケートの概要 ・アンケート調査は Web アンケート方式でマイクロソフトのフォームスを活用し、小中学生と教職員は市教委が貸与しているタブレットで学校回答を行い、保護者の方は個人所有のパソコンやスマホ等で回答していただいた。 ・小学生の回答率は 741 人中 663 人で 89.5%、中学生の回答率は 758 人中 673 人で 88.8%、保護者の回答率は 1204 人中 296 人で 24.6%、教職員の回答率は 400 人中 292 人で 73.0%であった。
(地域移行CN)	○小学生 5, 6 年のアンケート結果 ・現在、地域クラブなどに通っている小学校 5. 6 年児童は 504 人で、

(地域移行CN)	アンケートに回答した 663 人中、約 76%が入会している。サッカーが一番多い。2 つ以上の地域クラブ等に入会している児童が圧倒的に多い。活動日は平日と休日の両方が最も多く、活動日数は 2 日から 3 日が一番多い。 ・中学校の部活動へ入部を希望している児童は、6 年生は 357 人中 227 人で約 64%、5 年生は 306 人中 168 人で約 55%である。部活動への入部を希望しない児童の理由は、「特に理由はないが、やりたいと思わない」という理由が一番多い。 ・休日の部活動がなくなった場合の休日の地域クラブ等への入会希望は、「部活動を続けながら休日は地域クラブに通いたい」が 191 人で、その中で行先を決めている児童は 111 人で約 58%である。行先の種類は 36 種類である。複数の地域クラブ等へ行先を決めている児童は 111 人中 46 人で約 41%である。休日の地域クラブ等へ入会する理由としては、「もっと上手になりたいから」、「活動が好きだ(楽しい) から」が多い。休日の地域クラブ等で目指すレベルは、全国レベルが最も多い。休日の地域クラブ等への移動手段は、保護者などによる送迎が 79 人と最も多い。その 79 人中 29 人は徒歩か自転車も選択している。徒歩か自転車のみを選択した児童は 20 人である。休日の地域クラブ等での心配事は、「特に心配はない」が 77 人で最も多く約 69%である。休日に地域クラブ等に「通いたくない、悩んでいる・わからない」と思う理由については、部活動に入部していて「入会をしない」、「悩んでいる・わからない」と回答した 373 人に聞いたところ、「特に理由はないが、やりたいと思わない」、「平日に部活動で活動するから」、「他にやりたいことがあるから」の 3 つが約 3 割以上の児童が選択している。 ・部活動に入部を希望しない 58 人の地域クラブ等への入会の希望は、「通いたい」が 29 人である。この 29 人と、部活動入部希望者で「休日の部活動がなくなった場合に、部活動をやめて地域クラブ等に入会したい」と回答した 28 人の計 57 人に聞いたところ、行先を決めているのは 39 人である。その地域クラブ等の種類はバスケットボールとサッカーが多く、その他も含めて 29 種類と多くの種類に分かれた。地域クラブ等の活動日は平日と休日の両方が最も多い。地域クラブ等に入会したい理由としては「もっと上手になりたいから」が最も多く、約 56%である。地域クラブ等で目指すレベルは、全国レベルが最も多い。地域クラブ等への移動手段は保護者などによる送迎が最も多く、32 人で 8 割以上である。徒歩か自転車のみを選択した児童は 4 人である。地域クラブ等での心配事としては、「特に心配はない」が 23 人と 6 割弱である。 ・部活動に入部を希望しない 58 人の中で地域クラブ等に「通いたくない」、「悩んでいる・わからない」と回答した 29 人の理由として「特に理由はないが、やりたいと思わない」が 20 人で一番多い。 ○中学校 1, 2 年のアンケート結果 ・現在、地域クラブ等に入会している 1. 2 年生徒は 258 人で、673 人
-----------------	---

(地域移行CN)	の約38%の生徒が入会している。バスケットボールが一番多い。38種類の地域クラブ等に入会している。活動日は平日と休日の両方が最も多く、活動日数は1日が一番多い。入会理由として多いのは、「もっと上手になりたいから」が172人で約67%、「活動が好きだ・楽しいから」が139人で約54%である。目指すレベルとしては県レベルが一番多い。地域クラブ等での心配事は「特に心配はない」が177人、約69%で最も多い。 ・部活動に入部しない理由は、「特に理由はないが、やりたいと思わない」が最も多い。 ・休日の部活動がなくなった場合の休日の地域クラブ等への入会希望について、部活動に入部していて地域クラブ等に入会していない生徒362人に聞いたところ、「通いたくない」が最も多く163人で約45%である。「平日の部活動を続けながら、休日は地域クラブ等に通いたい」が73人で約20%である。した。その73人中、行先を決めている生徒は17人である。休日の地域クラブ等へ入会を希望する理由としては、「もっと上手になりたいから」が14人で最も多い。休日の地域クラブ等で目指すレベルは全国レベルが一番多い。休日の地域クラブ等への移動手段は「徒歩か自転車」が一番多い。休日の地域クラブ等での心配事は「特に心配はない」が多い。休日の地域クラブ等へ「入会しない、悩んでいる・わからない」理由について、部活動に入部していて休日の地域クラブ等へ「入会しない」、「悩んでいる・わからない」と回答した生徒283人に聞いたところ、「平日に部活動で活動しているから」、「特に理由はないが、やりたいと思わないから」が多い。2年生は「他にやりたいことがあるから」も多い。 ・地域クラブ等への入会希望を、部活動にも地域クラブ等にも入っていない生徒49人に聞いたところ、「通いたい」が7人である。この7人と「休日の部活動がなくなった時に退部して地域クラブ等に入会を希望する」6人の計13人に聞いたところ、行先を決めているのは1年生5人である。 ・最後に、部活動にも地域クラブなどにも入っていない49人に今後地域クラブなどに「入会しない」、「悩んでいる・わからない」の理由を聞いたところ、「特に理由はないが、やりたいと思わない」が21人で一番多い。 ○保護者（小学校5.6年児童、中学校1.2年生徒）のアンケート結果 ・回答対象児童生徒の状況は、小学生のみの家庭が142世帯、中学生のみが99世帯、両方の家庭が55世帯である。中学生の入部状況としては、入部している家庭は165世帯で、入部していない家庭は14世帯である。 ・小学校5.6年の児童の中学校部活動の入部について、「子どもの希望を尊重したい」は114人、「入部させたい」は92人、「入部させたくない」は2人である。 ・休日の部活動が無くなったときの、子どもの休日の地域クラブ等の
----------	---

(地域移行 CN)	入会に対する考えは、「子どもが希望すれば通わせたい」が 164 人と最も多い。「学校の部活動でないのなら通わせたくない」は 21 人、「休日の活動はさせたくない」は 14 人である。「どんな中学生対象の地域クラブ等があるのかわからないから答えられない」が 55 人で約 19%、約 5 分の 1 である。 ・地域クラブ等の月額 1 人の会費の妥当額については、上位 3 つが 1 円から 3,000 円未満までの回答に集まった。0 円は 14 人である。3,000 未満が約 7 割を占めている。 ・地域移行で懸念されることは、一番多いのが「学校以外での活動の場合の送迎」で 226 人、約 7 割である。「金銭面の負担」が 166 人、約 56%で、「希望する種目や活動内容の有無」が 158 人、約 53%と 5 割を超えたのがこの 3 つである。その他は 21 人でさまざまな懸念があったが、不満や要望などの意見もある。 ○小中学校教職員のアンケート結果 ・部活動顧問の担当状況は、部活動顧問の担当をしている中学校教職員 88 人と小学校教職員 30 人で、「指導可能な部活動を担当している教職員」は、主顧問、副顧問合わせて中学校が 40 人で、部活動顧問の担当をしている教職員の約 45%、小学校が 13 人で部活動顧問の担当をしている教職員の約 43%である。「指導可能でない部活動を担当している教職員」は中学校が 48 人、小学校が 17 人でともに 5 割以上である。部活動を担当していない教職員は中学校が 34 人で約 28%、小学校が 140 人で約 82%である。 ・部活動指導の負担感「ある程度負担を感じる」が最も多く、「かなり負担を感じる」と合わせると、中学校が約 76%、小学校が約 67%である。 ・休日の地域クラブ等への従事希望は、「兼職兼業の許可を得て従事を希望する（検討中も含む）」が中学校は 13 人、小学校は 11 人、「無償で従事を希望する（検討中も含む）」が中学校は 5 人、小学校は 4 人で、合わせると中学校が 18 人、約 15%、小学校が 15 人、約 9%である。従事を希望する休日の地域クラブ等の種類は 21 種類である。市内中学校の部活動の科学部と箏曲部以外の全ての部活動の種類で希望がある。 ・平日の地域クラブ等への従事希望は、「兼職兼業の許可を得て従事を希望する（検討も含む）」教職員は平日と休日、休日、平日を合わせると、中学校が 11 人、小学校が 16 人、「無償で従事を希望する（検討も含む）」教職員は平日と休日、休日、平日を合わせると、中学校が 5 人、小学校が 4 人で、合計で中学校が 16 人、約 13%、小学校が 20 人、約 12%である。従事を希望する地域クラブ等の種類は 19 種類である。市内中学校の部活動の科学部以外の全ての部活動の種類で希望がある。 ・アンケート結果は 4 月に公開するが、公開する内容については今後検討していく。
-----------	--

	○協議
(委員)	・子どもは保護者の影響を受けて決めることが多いので、保護者がどういう考えを持っているかが気になる。アンケートにあるような保護者の不安や心配事を考えていかなければならない。
(地域移行 CN)	・中学生を休日に受け入れてくれる地域クラブ等の情報を保護者と生徒に提供し、参加しやすくなる流れを作るとよい。
(田原課長)	・地域クラブ等の情報は市のスポーツ協会のホームページである程度まとめて一覧にして公開しており、学校にもそのことを伝えている。また、ポスターやチラシを小中学校に配布して会員を募集している競技もいくつかあった。
(委員)	・スポーツ系の一覧はあるが、文化系は無いので、それをどのようにしていくかが課題である。
(委員)	・アンケート結果を見て、文化協会として来年度は次世代育成事業に力を入れていこうと考えている。各文化関係団体に小学生、中学生、高校生を対象とした事業に取り組んでほしいとお願いしてみたい。
(委員)	・文化協会はいろいろな分野があり、音楽部門も以前は和楽器関係の団体と吹奏楽などの洋楽関係の団体があったが、今は和楽器関係の団体だけになったので、文化協会が参加を呼びかけても難しいかもしれない。神楽団体はそれぞれが子どもを養成しているから大丈夫だと思う。絵画や書道なども出来ると思う。趣味のような活動なら子どもは出来るかもしれない。
(委員)	・文化協会に動きが出てきたのは成果としてありがたい。現在のスポーツクラブは年間を通じて平日と休日の両方で活動しているものがほとんどである。そのクラブに休日だけ活動させてほしいというのはなかなか難しい。平日に部活動をして休日に趣味などで活動できる地域クラブ等がこれから出来てくるかもしれないので、その新たな情報を発信していく必要がある。
(委員)	・今は各自でホームページを見るなど自分で地域クラブ等を探すやり方だけど、配付すると選択しやすいと思う。ホームページの一覧以外に受け入れてくれる地域クラブ等はあるのではないかと思うので、もう少し調査してまとめる方がよいのでは。
(委員)	・勤務時間を超えての部活動が当たり前と思われると教員は辛くなる。今後は平日に部活動をして休日にやりたい活動を選んでできるようにするので、一覧があるとよい。保護者、生徒に広く周知できるとよい。
(委員)	・中学校単位での総合型地域スポーツクラブの形が作ることが出来れば、生徒数の少ない学校は選択肢が増えていろいろな活動がやりやすくなると思う。来年度、神戸市は部活動が無くなるが、その受け皿は総合型地域スポーツクラブになっている。神戸市のような大きな形の総合型地域スポーツクラブでなくても、小さな形なものがつくられると色々な休日の受け皿が作られるのではないかと思う。
(委員)	・このアンケート対象の子どもたちは大会でよい成績を収めたいとか上手になりたいという気持ちが強い。入会して一流選手になりたいという思いが強い。一人では勝てないのでチーム力を高めるために

